

1015. locally bicomactly bounded τ
空間 = 就テ

寺 阪 英 孝 (阪大)

§ 6. ニツノ閉カタ (\dot{K}) ノ和

前 = 定理 4 トシテ, ニツノ閉カタ (\dot{K}) ノ和ハ高々 (\ddot{K})
= ナルコトヲ証明シ, 参考定理 1 トシテ, (\dot{K}) ノ和デ
($L\dot{K}$) = ナルモノノ例ヲアゲタガ, ソノ序 = 問 6 トシテ,
ニツノ閉カタ (\dot{K}) ノ和ハ高々 ($L\dot{K}$) ナリデハアルマイカ.
ト考ヘタノハ行過デアツテ, 定理 4 ハ (少クモ $n = 1$ ノ場
合 = ハ) ヨリ精密 = ハナラナイコトガ分ツタカラ, コノ § デ
ソレヲ証明スル. 即チ

参考定理 2 ニツノ閉カタ (\dot{K}) ノ和ハ (\ddot{K}) = ナ
ルコトガアル。

例: $\{\gamma_n\}$ ヲ凡テノ有理数ノ集合トシ, 三次空間 R^3

内デ

$$x = \gamma_n (n = 1, 2, \dots)$$

ナレ平面内ニ曲線

$$\gamma_n: z = \frac{1}{3^n} \sin(3^n y)$$

ヲツクル。 R^3 空間

カラ

$$\gamma = \sum_{n=1}^{\infty} \gamma_n$$

ナル集合ヲ除イテ

モノヲ R トスル:

$$R = R^3 - \sum \gamma_n \\ = R^3 - \gamma$$

又 R ト $z \geq 0$ トノ

共通部ヲ A , R ト

$z \leq 0$ トノソレヲ B トスレバ

$$R = A + B$$

デアツテ、コレガ求ムル例デアル。即チ R ハ (\dot{K}) , ヲ A, B ハ
イザレモ (\dot{K}) デアリ, R ニ於テ開ゲテキル。

(証) R ガ (\dot{K}) デアルコトヲ証明シヨウ。ソレニハ
 $z > 0$ 又ハ $z < 0$ ナレ R 点ガ (LK) ナレコトハ明カ故,
 $z = 0$ 上ノ R 点ガ (\dot{K}) ナレコトヲ言ヘバヨイ。ソノ γ ニ
 $z = 0$ 上ノ R 点 a ヲ含ム有界ナ閉集合 (R^3 ニ開スル)ヲ
トスレバ, $O_R = O \cdot R$ ノ R ニ開スル境界 \dot{O}_R ガ少クモ (\dot{K})

デアルコトヲ云へバヨイ。(高々(K)デアルコトハ明)

今 $\{U\}$ ヲ

$$(*) \quad U \cdot O \neq 0, \quad U \cdot \dot{O}_R = 0$$

ナル条件ヲ満足スル領域 (連結+開集合) ノ凡テトシ

$$O^* = \sum_{U \in \{U\}} U$$

ト置ケバ

$$(i) \quad O^* \text{ハ開集合デ. } O \subset O^*$$

$$(ii) \quad \dot{O}_R = \dot{O}_R^*$$

$$(iii) \quad O^* \text{ハ有界}$$

が成立スル。

(i)ハ明デアル。(ii)ヲ証明スルタメ、(*)ノ条件 $U \cdot O \neq 0, U \cdot \dot{O}_R = 0$ ヲ満足スル一ツノ領域 U ニツキ、点 $x \in U \cdot O$ ヲトシ。若シ $\exists U \cdot R = U - \gamma$ が O 以外ノ点 y ヲ包含シタトスレバ、 γ ノ性質カラ $U - \gamma$ ハ連結ナル故コレハ O ノ (R ニ關スル) 境界 \dot{O}_R ノ点ヲ包含ムコトニナリ $U \cdot \dot{O}_R = 0$ ニ反スルコトニナルカラ。 $U \cdot R$ ハ O 以外ノ点ハ包含シナイ。ソレ故

$$O^* \cdot R = \sum_{U \in \{U\}} U \cdot R \subset O \cdot R$$

(i)ヲ考慮シ入レレバ $O^* \cdot R = O \cdot R$ トナリ、從ツテ $\dot{O}_R = \dot{O}_R^*$ カ分ツタ。

(iii)ハ今ノコトカラ又當然デアル。

以上ニヨリ、 O ノ代リニ O^* ニツイテ、 \dot{O}_R^* カ高々

(LK) デハアリ得ナイコトヲ証明スレバヨイ。

今 $\gamma \cdot O^*$ = 属スル一点トカラ, γ = 属スル曲線 γ_n ヲヒキ, O^* ト交ハル点ヲ q トスレバ, q ハ \dot{O}_R^* ノ集積点ニナル。何者, 若シモ集積点デナカッタラバ, $\dot{O}_R^* = \dot{O}_R$ ナルコトカラ, 十分小サナ近傍 (特ニ領域) $V \ni q$ ヲトレバ $V \cdot \dot{O}_R = 0$ ニナルトシ, コノ V ハ $V \cdot O^* \neq 0$ ナル故,

$O^* = \sum_{U \in \{U\}} U$ ノ一頂 $U = \text{對シテ } V \cdot U \neq 0$ ニナル。ヨツテ

$V+U$ ハ

$$(V+U) \cdot O \neq 0, \quad (V+U) \cdot \dot{O}_R = 0$$

ナル (*), 條件ヲ満足スル領域カカラ, $O^* \supset V+U \ni q$ トナツテ $q \in \dot{O}^*$ = 矛盾スル。即チ q ハ \dot{O}_R^* ノ集積点デナケレバナラナイ。

ソコデ初メ = 與ヘラレヌ O ノ内点 $a \in O \cdot R = \text{收斂シ且}$
 γ 上ニアル点列 p_1, p_2, \dots ヲ考ヘ, ソレニ對スル \dot{O}^* 上
ノ点 q_1, q_2, \dots ノ集積点ヲ q トスレバ, q ハ a ヲ通り γ
軸ニ平行ナ直線上ノ点ナル故, γ = 属セズ, 従ツテ \dot{O}_R^* 上ノ
点デアルガ, コノ q 点ノ $\dot{O}_R^* = \text{與スル近傍ハ (LK) = ハナ}$
リ得ナイノデアル。何者, $\dot{O}_R^* = \text{對スル } q$ ノ如何ナル近
傍ニモ $\dot{O}_R^* = \text{属シナイ点 } q_n \text{ ガアリ, 而モ } q_n \text{ ハ } \dot{O}_R^* \text{ ノ集}$
積点カカラデアル。

即チ \dot{O}_R^* 従ツテ \dot{O}_R が (LK) デハナイ (勿論 (K) デ
モナイ) コトガ分ツタカラ, R が (K) デアルコトガ証明出
来ヌ。

次 = A 及び B が夫々 (\dot{K}) デアルコトハ γ 造り方カラ
容易ニナル故, 証明ハ略ス。 —

参考定理 1, 2 及び定理 3 ヲ綜合スレバ

《ニツノ開キタ (\dot{K}) ノ和ハ (\dot{K}) ニナルカ, $(L\dot{K})$ =
ナルカ, (\dot{K}) = ナルカラデアレ》

尚帰納法ヨリ, 定理 4 ハ次ノ定理ニ擴張出来ルコト
ヲ附加ヘテオキタイ。

定理 4' (開加法定理) ニツノ開キタ (K^m) ト
 (K^n) トノ和ハ高々 (K^{m+n}) デアル。

ドノ程度 = $m+n$ ノ値が精密デアルカハ尚不明。